

「キャンベラに居住する女性のパーソナル・ネットワーク調査」 の基礎分析 (その1)

野邊 政雄

筆者は2013年3月から5月にかけてキャンベラにおいて女性のパーソナル・ネットワークと集団加入に関する調査を実施した。本稿の目的は、調査票にあるそれぞれの質問への回答結果を提示し、考察を加えることである。集計結果を検討し、次の3点を明らかにした。①約半数の回答者はキャンベラで10代をおくっていた。②回答者は民族的出自でイギリス系やオーストラリア系が多い。③回答者とその夫ないしパートナーは社会経済的地位が高い。

Keywords: キャンベラ, 女性, パーソナル・ネットワーク, 集団加入

1 はじめに

キャンベラの歴史を振り返っておきたい。1901年にオーストラリア連邦が成立した。それ以前、オーストラリアは6つのイギリスの植民地であった。その中で、ニュー・サウス・ウェールズとビクトリアの両植民地が有力であった。連邦が成立したとき、ニュー・サウス・ウェールズ州はその州都シドニーを、またビクトリア州はその州都メルボルンを、オーストラリア連邦の首都にすることを主張し、決着が着かなかった。そこで、次のような妥協がなされた。連邦政府の首都をシドニーよりも100マイル以上離れたニュー・サウス・ウェールズ州のどこかに新たに建設する。ニュー・サウス・ウェールズ州に首都を建設する代償として、連邦議会と連邦政府の官庁はビクトリア州の州都であるメルボルンに当面の間おく。この妥協にもとづいて地形を測量し、シドニーの南西320キロメートルの場所をオーストラリア首都特別地域に選定した。ニュー・サウス・ウェールズ州はオーストラリア連邦にその地域を割譲し、1911年にキャンベラはオーストラリア連邦の首都となることになった。

当時、そこは羊の放牧場で、ほとんど何もない土地であった。連邦政府は、1911年に首都の都市デザインを全世界に公募した。審査の結果、アメリカ人の建築家ウォルター・バーリー・グリフィン(Walter Burley Griffin)の案が一席に輝いた。彼の都市デザインは次のようなものである。首都特別地

域北東部を流れるモロングロ川を堰止め、人造湖を築造する。そして、湖の周辺に国会議事堂、主要官庁、国家機関(国立図書館や最高裁判所など)を配置する。この中心地帯の外に、住宅地がある。その都市の道路は、地形を生かして幾何学的に設計されている。

1927年に仮設の国会議事堂が建設され、キャンベラは正式にオーストラリア連邦の首都となった。しかし、大恐慌(1929年)と第二次世界大戦(1939年から45年)のために、首都の建設は長い間進展しなかった。その間、メルボルンに連邦政府の官庁が置かれていた。首都建設が本格的に開始されたのは、第二次世界大戦後のメンジース内閣になってからである。首相ロバート・メンジース(Robert G. Menzies)は、そのために、首都開発委員会(National Capital Development Commission)を1958年に設置し、同委員会に都市計画の大きな権限と財政的な裏づけを与えた。その結果、1960年頃から都市開発が進展し、キャンベラは首都としての体裁を整えるようになった。画期的な出来事は、人造湖(バーリー・グリフィン湖)が1964年に築造されたことである。大半の官庁は、1960年代と1970年代前半にメルボルンからキャンベラに移転した。これに伴って、多くの人々がこの時期にキャンベラへ流入した。1988年に新国会議事堂が建設され、これによって首都として一応の完成をみた。連邦政府は都市建設に多額の支出をしたので、同委員会は住環境の整

備された都市を建設できた。

1911年から連邦政府がキャンベラをずっと直轄統治し、自治政府は置かれていなかった。その間、キャンベラの都市開発を担当していたのは連邦政府であったので、その住民は都市開発の費用を直接負担しなくとも済んだ。ところが、1989年に連邦政府は自治政府であるACT政府を設立し、首都開発委員会を解散した。ACT政府が住宅地の開発を担当することになったので、住民は自ら負担する税金で都市開発をしてゆかねばならなくなり、ACT政府は都市開発の経費を切りつめざるをえなくなった。その一方で、ACT政府が設立されたので、住民はACT議会の議員を選挙で選ぶことによって、地方政治に民意を表出できるようになった。

現在のキャンベラは、タウンと呼ばれる5つの地区から構成されている。建設された順にあげると、インナー・キャンベラ (Inner Canberra)、ウォーデンとウェストン・クリーク (Woden and Weston Creek)、ベルコネン (Belconnen)、タグラノン (Tuggeranong)、ガンガーラン (Gungahlin) である。第5のタウンであるガンガーランは現在建設中である。ガンガーラン以外のタウンには、6～9万人の住民が居住している。

1958年から1989年まで、首都開発委員会がキャンベラの都市開発をおこなってきた。現在ではより柔軟に都市開発がなされるようになってはいるが、その開発方針は踏襲されている。キャンベラの都市開発の方針は次の3点にまとめることができる (野邊 1996)。

第1は、近隣住区論である。サバープ (近隣住区) はだいたい小学校区である。サバープはペリーの近隣住区論にもとづいて建設されている。小学校、幼稚園、近隣公園、小規模ショッピング・センターであるローカル・センターがその中に置かれている。

ローカル・センターには、10軒ほどの店舗と一般開業医の診療所がある。ローカル・センター以外の場所に商業施設はない。ペリー (Perry 1929) はそうした施設をそれぞれの近隣住区に配置し、近隣住民の接触頻度を高めることによって、住民の近隣関係を形成したり、地域的一体感を醸成したりしようとした。近隣住区内の車道は曲がりくねっているので、通過するだけの車は近隣住区を取り囲む幹線道路を走り、近隣住区の中の道路に入らないようになっている。

第2に、生活関連施設や行政・商業施設の配置基準として、サバープ、近隣グループ、タウンという3つのレベルがあることである。それぞれのレベルには、さまざまな施設が図1のように配置されている。そして、住民は自らのタウン内にある施設を利用すれば、生活を営めるようになっている。

第3に、田園都市論である。人口密度が低い都市となるように広大なオープン・スペース (森林公園) をタウンの間に設け、近隣公園をサバープの中に配置し、広々とした庭付きの一戸建て住宅が一般的であるようにした。ここにハワード (Howard 1902) の田園都市論の影響を見ることができる。

ところで、筆者は1984年から1988年までキャンベラにあるオーストラリア国立大学に留学し、キャンベラの住民のパーソナル・ネットワークを研究した。この研究のために、キャンベラで住民のパーソナル・ネットワークの調査を1986年から1987年にかけて実施した。そして、人工的に建設された都市に住むことは、住民のパーソナル・ネットワーク形成および地域への一体感醸成にどのような影響を及ぼすのかを明らかにしようとした。調査結果によれば、住民は近隣関係をあまり取り結んでおらず、地域的一体感もあまり持っていなかった。そこで、近隣住区論にもとづいてサバープを建設することは近

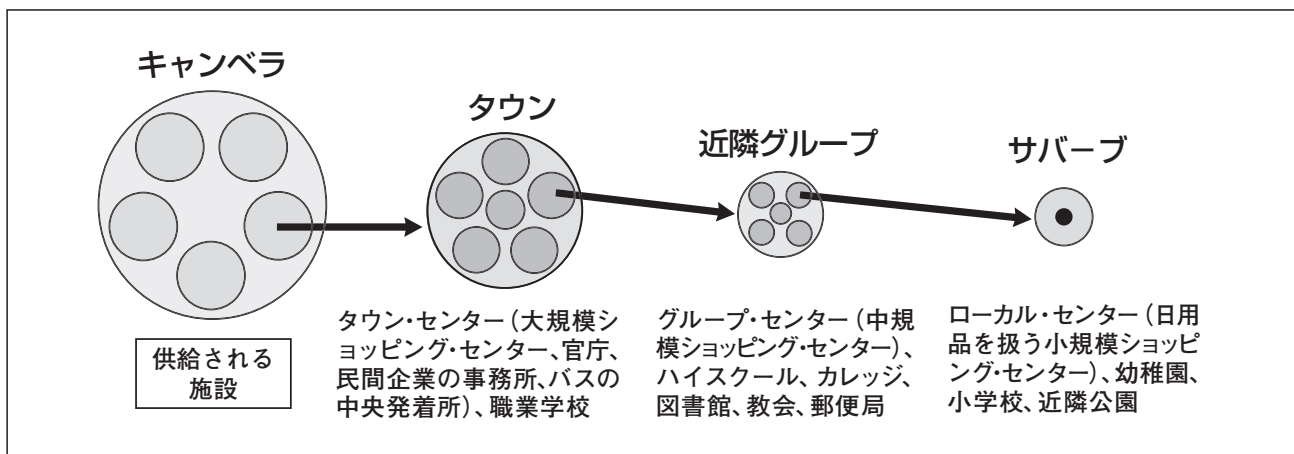


図1 キャンベラにおける施設の配置

隣関係形成や地域的一体感醸成に役立っていないと判断した。住民は場所に捕らわれることなく、キャンベラ内のさまざまなところで多くの友人関係を取り結んでいた。そして、住民はメルボルンの親族（両親、きょうだいなど）と多くの親族関係を取り結んでおり、キャンベラの中ではあまり親族関係を有していなかった。これは、当時、官庁の移転に伴ってメルボルンからキャンベラに転入した人々がキャンベラの住民の多くを占めていたからである。筆者はこの調査結果をまとめてPh.D.論文（Nobe 1991）を執筆し、それを翻訳し『キャンベラの社会学的研究』（野邊 1996）を上梓した。

筆者は2013年3月から5月にかけてキャンベラにおいて女性のパーソナル・ネットワークと集団加入に関する調査を再び実施した。そして、この調査結果を1986年から87年にかけて実施した調査の結果と比較することによって、住民のパーソナル・ネットワークが四半世紀の間にどのように変化したかを明らかにしようとした。本稿では、2013年に実施した調査の結果をそれぞれの質問ごとに提示し、それに考察を加える。

2 調査方法

キャンベラで岡山大学のプロジェクトとして調査を実施しようとしても、住民は岡山大学をまずもって知らないから、調査対象者に調査を信用してもらえない。もし岡山大学のプロジェクトとして調査をした場合、調査員が個別面接調査のために調査対象者の家を訪問しても、調査に応じてもらえないといったトラブルが多発すると予想された。そこで、筆者はその都市にあるオーストラリア国立大学のオーストラリア人口・社会研究所（The Australian Demographic and Social Research Institute）の研究員（Program Visitor）となった。そして、調査票と調査計画書その大学の倫理委員会に提出し、審査を受けた。そのうえで、オーストラリア国立大学のプロジェクトとして、この調査を実施した。

近所の人々とのつき合いを主に担うのは女性と考えられたので、1986年から1987年にかけてキャンベラで実施した調査では、55歳以下の配偶者あるいはパートナーのいる女性を調査した。オーストラリアでは事実婚がますます一般化していることを考慮し、今回の調査では25歳から54歳までの女性を調査することにした。

オーストラリアでは、日本の住民基本台帳や選挙人名簿のような住民の名簿は公表されていない。そこで、母集団の名簿から標本を無作為に抽出することはできない。代わりに、次の方法で、標本設計を

おこなった（大谷 2005: 156-158）。

①国勢調査でデータが公表される最小の地域はThe Statistical Area Level 1（SA1）と呼ばれており、150世帯くらいからなっている。キャンベラで23のSA1を無作為に選んだ。そして、2011年の国勢調査のデータによって、選ばれたそれぞれのSA1に住む25歳から54歳の女性の人数を調べた。

②使うことのできる調査費から、224人に個別面接調査ができることが判明した。それぞれのSA1に住む25歳から54歳の女性の人数は分かっているから、それぞれのSA1でおこなう調査数をその女性の人数に比例するように決めた。そして、それぞれのSA1で実施する調査数の合計が224になるようにした。

③それぞれのSA1の住宅地図から、出発点となる世帯を選んだ。調査員は出発点となる世帯から訪問を始め、左に3戸ごとに世帯を次々に訪問していった。そして、訪問した世帯に25歳から54歳の女性がいたら、その女性に依頼して調査をおこなった。1世帯に2名以上のそうした女性がいても、1名に調査をおこなった。調査がそれぞれのSA1で実施する調査数に達したら、そのSA1での調査を終えた。なお、訪問を予定していた世帯には、調査の趣旨を書いた調査依頼状をあらかじめ投函しておいた。

3 質問項目

オーストラリアでは、1970年頃から事実婚が増加している。調査票の質問では、事実婚の相手をパートナー（partner）と呼んでいる。

Q20は、ゴールドバーグら（Goldberg and Hillier 1979）の精神健康調査（General Health Questionnaire）の質問である。もともとイギリスでその質問は作成された。キャンベラでプリテストをしたところ、一部の表現はオーストラリアで意味が通じないことが分かった。そこで、そうした表現は手直しをした。

Q22（出生地）、Q24（5年前の居住地）、Q29（10代をすごした場所）の選択肢の1つが「キャンベラ」ではなく、「キャンベラとクインビアン」（Canberra and Queanbeyan）となっていることである。クインビアンはキャンベラの東に隣接してある、ニュー・サウス・ウェールズ州の都市である。2011年の国勢調査の人口は約38000人である。クインビアンは機能の上でキャンベラと一体化しているので、選択肢を「キャンベラ」でなく「キャンベラとクインビアン」とした。

4 集計結果

224の個別面接調査をおこなったが、そのうちの1票は回答拒否がとて多かったから、分析から除外した。そこで、223票を分析することになった。調査票の質問に対する回答は、本稿の最後にまとめて示す。

Q33にある回答者の職業とQ36にある回答者の夫ないしパートナーの職業は、Australian and New Zealand Standard Classification of Occupations (ANZSCO)のFirst Editionに従って分類した(ABS 2006)。また、Q33とQ36にあるAUSEI06というのは、オーストラリア国立大学のマクミランらが開発した職業威信スコアである(McMillan *et al.* 2009)。ANZSCOとAUSEI06職業威信尺度は関連づけられており、ANZSCOにある職業ごとに職業威信スコアが与えられている。

5 考察

回答者の属性を見てゆくことにする。

第1に、キャンベラの出身者が多いことである。キャンベラとクィンビアンで生まれた回答者は22.9%である(Q22)が、そこで10代をすごした回答者は46.6%である(Q29)。キャンベラないしクィンビアンで10代をおくった回答者は約半数にのぼっている。

第2に、ニュー・サウス・ウェールズ州の出身者が相対的に多いことである。ニュー・サウス・ウェールズ州で生まれた回答者は30.9%であり(Q22)、そこで10代をすごした回答者は20.2%である(Q29)。

第3に、回答者の学歴が高いことである。大学卒業が36.8%、大学院修了が23.3%である。さらに、ハイスクール卒業後に何らかの教育を受けた回答者は、20.2%を占める(Q32)。

第4に、多くの回答者が就業しており、管理的職業や専門職に就いていることが多いことである。調査時点において、76.2%の回答者が就業していた(Q33)。つまり、223人の回答者のうち、170人が就業していた。就業する回答者170人のうち、管理的職業に就いていたのは14.1% (24 / 170)、専門職に就いていたのは39.4% (67 / 170)であった。そして、就業する回答者の職業威信スコアは、平均62.67である(Q33)。

第5に、回答者の夫ないしパートナーの多くが管理的職業や専門職に就いていることである。調査時点で働いていた回答者の夫ないしパートナーは、171人いた。そのうち、管理的職業に就いていたのは19.9% (33 / 171)、専門職に就いていたのは43.9% (75 / 171)であった。そして、就業する夫

ないしパートナーの職業威信スコアは、平均65.04である(Q36)。

第6に、回答者の民族的出自がオーストラリアやイギリスが多いことである。回答者の父親の出生国は、オーストラリアが55.6%であり、イギリスが10.3%である(Q37)。回答者の母親の出生国は、オーストラリアが61.0%であり、イギリスが6.7%である(Q38)。このように、両親の約3分の2はオーストラリアやイギリス生まれである。Q39で回答者の民族的出自を質問している。回答者は複数の民族的出自を選べるが、44.4%がイギリス系、36.8%がオーストラリア系と答えている。

第7に、ほとんどの回答者には自分専用に使える自動車があることである。95.1%の回答者は自動車を自由に利用できる(Q40)。キャンベラ内の公共交通機関はバスだけである。バスではどうしても移動が制約されてしまう。しかし、大部分の回答者は自動車を利用できるから、キャンベラ内を自由に移動できる。

第8に、回答者やその夫ないしパートナーの収入が高いことである。週給1500オーストラリア・ドル以上を稼ぐ回答者の割合は31.8%であった(Q41)。そして、週給1500オーストラリア・ドル以上を稼ぐ回答者の夫ないしパートナーの割合は、61.8% (113 / 183)であった。

(引用文献)

- ABS, 2006, *Australian and New Zealand Standard Classification of Occupations*, First Edition, Canberra: ABS (Australian Bureau of Statistics), ABS Catalogue No. 1220.
- Goldberg, David P., and Valerie F. Hillier, 1979, "A Scaled Version of the General Health Questionnaire," *Psychological Medicine*, 9(1): 139-145.
- Howard, Ebenezer, 1902, *Garden City of To-morrow*, London: Baber and Faber. (= 1968, 長素連訳『明日の田園都市』鹿島出版会.)
- McMillan, Julie, Adrian Beavis, and Frank L. Jones, 2009, "The AUSEI06: A New Socioeconomic Index for Australia," *Journal of Sociology*, 45(2): 123-149.
- Nobe, Masao, 1991, "Social Change and Social Participation in a Planned City: The Case of Canberra," Ph.D. thesis, The Australian National University.
- 野邊政雄, 1996, 『キャンベラの社会学的研究』行路社.
- 大谷信介, 2005, 「サンプリングの論理と実際」大谷

信介ほか『社会調査へのアプローチ [第2版] : 論理と方法』ミネルヴァ書房, 120-159.

Perry, Clarence Arthur, 1929, "The Neighborhood Unit," Committee on Regional Plan of New York and Its Environs ed., *Neighborhood and Community Planning: Regional Survey Vol.7*, New York: Regional Plan of New York and Its Environs,

19-140. (= 1975, 倉田和四生訳『近隣住区論』鹿島出版会.)

(本稿は, 平成23年度-26年度, 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究B (海外学術調査)「自治政府設立後におけるキャンベラの都市開発および住民の人間関係」(研究代表者 野邊政雄)による研究成果の一部である。)

1. THIS HOUSEHOLD

Q1. How many people live in this household?

Q1a. Can you please give details of their relationship to you and their age?

Q1b. What is your age?

The age of respondents and their husbands/ partners

age	respondents		husbands (partners) living with a respondent	
	number	percentage	number	percentage
20-29 years old	29	13.0%	12	5.4%
30-39 years old	87	39.0%	69	30.9%
40-49 years old	76	34.1%	61	27.4%
50-59 years old	31	13.9%	32	14.3%
60-69 years old			3	1.3%
no husband or partner			46	20.6%
total	223	100%	223	100%

The average age of respondents

average	S.D.	maximum	minimum
39.26	8.21	54	25

The average age of husbands or partners

average	S.D.	maximum	minimum
41.07	8.49	62	23

Types of families

types of families	number	percentage
respondent	17	7.6%
respondent + partner	30	13.5%
respondent + partner + child(ren)	136	61.0%
respondent + child(ren)	22	9.9%
respondent + parent(s) + child(ren)	4	1.8%
respondent + child + spouse of child	4	1.8%
others	10	4.5%
total	223	100%

2. YOUR SOCIAL RELATIONSHIPS

In this section I will be asking you to describe anyone who is part of your social network wherever they live: with you, nearby or far away. You do not need to give me their full names – just first name, initials or a nickname will do as we go through each question.

Q2. If you were hospitalised for two to three months, is there anybody you could ask to visit you to cheer you up, bring you your mail, bring any personal items you needed, and so on? Please include members of your own household.

Q2a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q3. In an emergency, if you needed to borrow \$300, is there anybody you could borrow from without hesitation? Please include members of your own household.

Q3a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q4. Do you do any paid work?

Q4a. *IF YES*: Some people never talk with anyone, either on or off the job, about their work. Other people do discuss things like decisions they have to make, work problems they have to solve, ways to do their work better, and problems they have in workplace relationships. Is there anyone you could talk with about your work? Please include members of your own household.

Q4b. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q5. When you are concerned about a personal matter – for example, about someone you are close to or something you are worried about – is there anybody you could talk with about such matters? Please include members of your own household.

Q5a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q6. When you are disappointed by something or feel depressed by sad events, is there anybody from whom you could seek comfort? Please include members of your own household.

Q6a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q7. When people go away for a while, they sometimes ask someone to take care of their home for them – for example, to water the plants, pick up the mail, feed a pet, or just check on things. If you went away, could you ask someone to take care of your home in any of these ways while you were gone? In this answer, please exclude members of your own household.

Q7a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q8. Have you any friends or relatives who could help with any tasks around the home, such as painting, moving furniture, cooking, cleaning or minor repairs? In this question, please *exclude* members of your own household.

Q8a. *IF YES*: Could you give me their first name(s)?

Q9. Have you done any of the following activities with anybody from outside your own household in the last three months?

- (1) Had someone to your home for lunch or dinner
- (2) Went to someone's home for lunch or dinner
- (3) Someone came to your home for a visit, a cup of tea/coffee or a drink
- (4) Went over to someone's home for a visit, a cup of tea/coffee or a drink
- (5) Went out with someone (e.g. a restaurant, bar, movie, park)
- (6) Had a long and intimate conversation on the telephone
- (7) Had an intimate talk by e-mail, SMS or Skype
- (8) None of activities above (*SKIP TO INSTRUCTIONS*)

Q9a. *IF ANY YES*: Please list the first names of the people you most often did one or more of these activities with, excluding members of your own household. Which of these people would you consider close to you?

	yes		no	
	number	percentage	number	percentage
Q2	222	99.6%	1	0.4%
Q3	221	99.1%	2	0.9%
Q4	168	75.3%	55	24.7%
Q5	198	88.8%	25	11.2%
Q6	219	98.2%	4	1.8%
Q7	209	93.7%	14	6.3%
Q8	190	85.2%	33	14.8%
Q9	221	99.1%	2	0.9%

Q10. In previous questions, you've given me the names of some of the people you know. Now, I'm going to ask you to give me a little more information about each of them starting with.

Q10a. Is (*NAME OF PERSON*) male or female?

Q10b. How old is (*NAME OF PERSON*)?

Q10c. How is (*NAME OF PERSON*) connected with you now?

Q10d. Where does (*NAME OF PERSON*) live? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q10e. How often would you say that you get together with (*NAME OF PERSON*) in person? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q10f. How often would you say that you have contact with (*NAME OF PERSON*) by other means such as letter, telephone, e-mail, SMS/text message or Facebook? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q10g. Is (*NAME OF PERSON*) from the same ethnic background as you?

Q11. In the previous questions, you may have given me the name of at least one of your parents. Do you have any other parents who do not live with you, including step parents?

Please give me the names of these parents, and I need a little more information about each of them.

Q11a. Is (*NAME OF PERSON*) your father or mother?

Q11b. How old is (*NAME OF PERSON*)?

Q11c. Where does (*NAME OF PERSON*) live? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q11d. How often would you say that you get together with (*NAME OF PERSON*) in person? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q11e. How often would you say that you have contact with (*NAME OF PERSON*) by other means such as letter, telephone, e-mail, SMS/text message or Facebook?

the average number of parents

	average	S.D.
parents living together in Q1	0.03	0.20
parents living away who appeared in Q2 to Q9	1.16	0.76
parents who appeared in Q11	0.35	0.61
total	1.54	0.65

Q12. In the previous questions, you may have given me the names of some of your children (including step children). Do you have any other children who do not live with you?

IF YES: Please give me the names of these children, and I need a little more information about each of them. (*FILL IN THE TABLE ON THE NEXT PAGE.*)

Q12a. Is (*NAME OF PERSON*) a son or a daughter?

Q12b. How old is (*NAME OF PERSON*)?

Q12c. Where does (*NAME OF PERSON*) live? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q12d. How often would you say that you get together with (*NAME OF PERSON*) in person?

Q12e. How often would you say that you have contact with (*NAME OF PERSON*) by other means such as letter, telephone, e-mail, SMS/text message or Facebook?

the average number of children

	average	S.D.
children living together in Q1	1.55	1.16
children living away who appeared in Q2 to Q9	0.25	0.70
children who appeared in Q12	0.09	0.34
total	1.88	1.28

Q13. In the previous questions, you may have given me the names of some of your brothers and sisters. Do you have any other brothers and sisters who do not live with you?

IF YES: Please give me the names of these brothers and sisters, and I need a little more information about each of them. (FILL IN THE TABLE ON THE NEXT PAGE.)

Q13a. Is (*NAME OF PERSON*) a brother or a sister?

Q13b. How old is (*NAME OF PERSON*)?

Q13c. Where does (*NAME OF PERSON*) live? (*READ OUT CATEGORIES*)

Q13d. How often would you say that you get together with (*NAME OF PERSON*) in person?

Q13e. How often would you say that you have contact with (*NAME OF PERSON*) by other means such as letter, telephone, e-mail, SMS/text message or Facebook?

the average number of siblings

	average	S.D.
siblings living together in Q1	0.02	0.15
siblings living away who appeared in Q2 to Q9	1.23	1.15
siblings who appeared in Q13	1.00	1.40
total	2.25	1.55

